

奈良公園植栽計画検討委員会における取組

今年度の動き・計画

1-1. 若草山 草地のナンキンハゼ対策

1-2. 若草山 樹林地のナンキンハゼ対策

1-1. 若草山 草地のナンキンハゼ対策

【令和4年度】

ドローン空中撮影により草地の植生区分を行い、ナンキンハゼの分布状況を捉え、ナンキンハゼ群落、イワヒメワラビ群落、ススキ群落、シバ群落の4群落について植生調査を実施した。

【令和5年度】

4群落に対して、①2回刈り、②1回刈り＋薬剤塗布、③1回刈り(通常手法)の3つの手法を用いてナンキンハゼ対策の試行調査を実施した。

【令和6年度】

令和5年度の試行調査を継続した結果、現時点では②1回刈り＋薬剤塗布＞①2回刈り＞③1回刈り(通常手法)の順で有効性の差や課題が確認できた。

また、奈良公園事務所が根系掘取りを実施したところ、大株除去の有効性が確認できた。



1回刈り＋薬剤塗布



2回刈り(刈払前)



根径掘取り施工状況



同左 掘取した根系

【令和7年度(予定)】

- ・前年度のモニタリングと試行調査を継続(3カ年目)。
- ・草地管理の基本方針(案)の検討
(基本的な考え方、ゾーン別管理目標、優先度等)
- ・草地管理方針の検討
(基本方針(案)を具体化するための管理方策等)

1-2. 若草山 樹林地のナンキンハゼ対策：経緯

【令和4年度】

草地に隣接する樹林地にナンキンハゼの分布が多数確認され、一部に純林がみられた。

【令和5年度】

樹林地のナンキンハゼの分布調査を行った結果、約2000本の成木があり、分布の偏りや生育タイプの違いが確認された。

次に、生育タイプ別にモニタリング区を設け、伐採と薬剤使用によって試行的に駆除を行いモニタリングを開始した。また、モニタリングとは別に、伐採手法の試行調査として①通常伐採、②伐採+根系被覆、③巻き枯らし、④伐採+薬剤塗布を実施した。

【令和6年度】

令和5年のモニタリングと試行調査を継続。また、樹林地の植生調査と大径木調査を行い、令和5年度までに得られた調査結果を加えて、ナンキンハゼが侵入しやすい環境と侵入しにくい環境を明らかにした。これらの調査結果から、樹林地のナンキンハゼを制御するための管理方針(案)※次頁を検討した。

- ・樹林5・6の4-1・4-2イヌガシーウリハダカエデ群落にナンキンハゼが多い。
- ・樹林4の10サクラ植林の谷地形にナンキンハゼが多い。
- ・他のナンキンハゼは、湿地や水系、ギャップ(ナラ枯・風倒)に多く見られる。

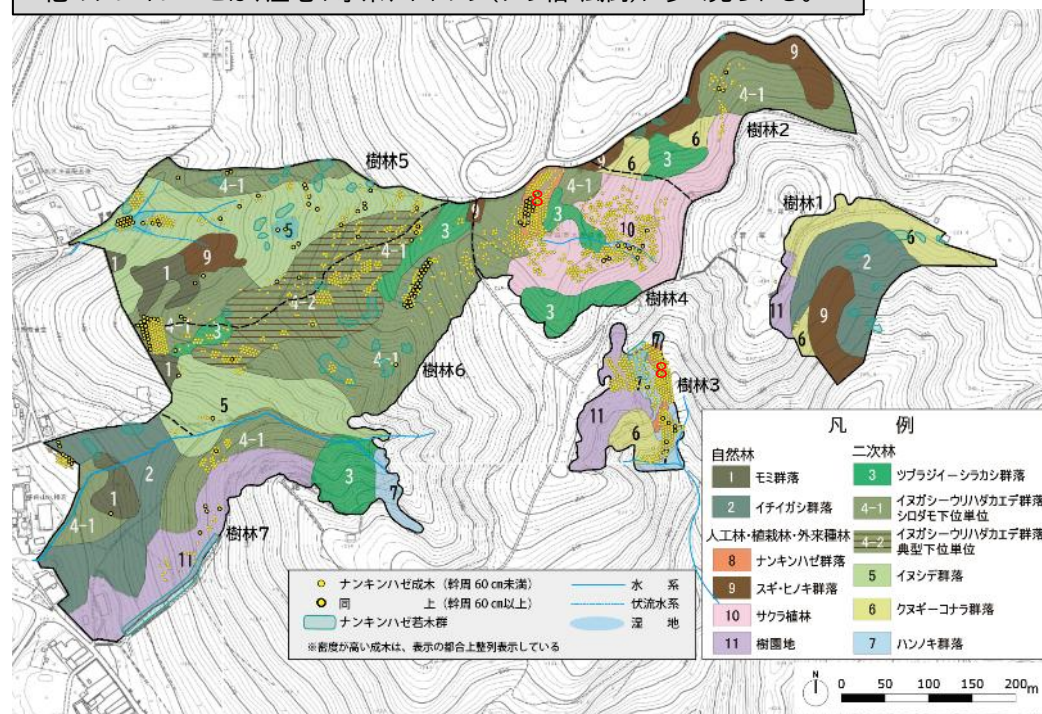


図 相観植生とナンキンハゼ分布の重ね合わせ

1-2. 若草山 樹林地のナンキンハゼ対策：早期駆除区の実施計画(案)の検討

【令和6年度】

樹林地のナンキンハゼの管理方針案(要約)

- ・特別天然記念物春日山原始林や若草山の草地へのナンキンハゼ種子の散布を停止させる必要がある。
- ・春日山原始林への影響が大きな区域を優先して、ナンキンハゼの個体数を大きく減らす駆除を行うとともに、外部から樹林地にナンキンハゼの種子が散布されても侵入・増殖しにくい樹林の形成を進める。

管理手法(案)

- 成木等駆除：薬剤塗布を併用。薬剤塗布を行っても大径木は再萌芽する可能性が高く、実生による幼木も出現するので、約5年間隔(想定)で駆除を実施する。
- 鬱閉林形成：シカの食害が少ない樹種から、立地環境に適した樹種を、主にナンキンハゼ成木伐採跡地に植栽する。(主要候補：モミ、ハンノキ)

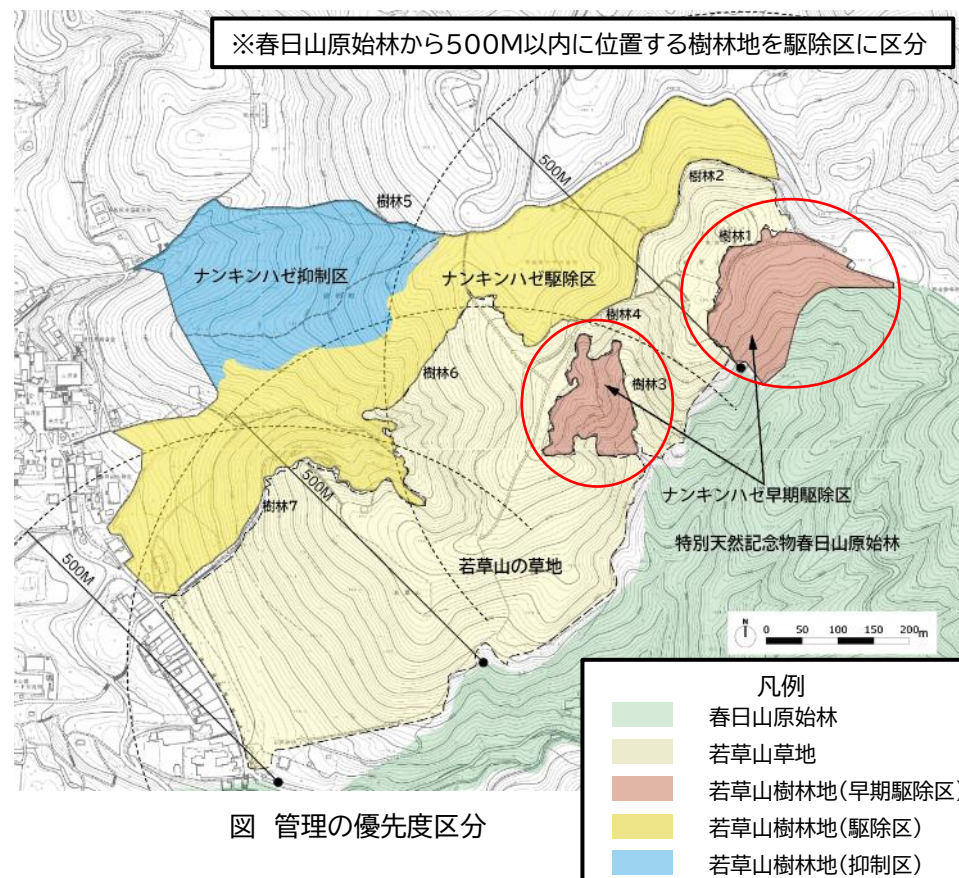


図 管理の優先度区分

【令和7年度(予定)】

- ・早期駆除区(樹林1, 3 約4ha)を対象に、ナンキンハゼの駆除と鬱閉林形成のための補植等の対策を総合的に検討し、実施計画(案)としてとりまとめる。

1-3. 調査・検討工程

R7年度の調査・検討予定

工 程		R7年10月			11月			12月		
1-1.若草山 草地のナンキンハゼ対策										
	草地試行調査区の観察・記録	調査								
	若草山草地のナンキンハゼ管理方針の検討	計画・検討								
	若草山草地のナンキンハゼ管理の試行調査結果まとめ	計画・検討								
1-2.若草山 樹林地のナンキンハゼ対策										
	樹林 1, 3 (早期駆除区) 現地調査	調査								
	若草山樹林地・早期駆除区の実施計画の検討	計画・検討								
	樹林モニタリング	調査								
	樹林 1、2 の継続刈り払い	調査								
	若草山樹林地のナンキンハゼ管理の試行調査結果まとめ	計画・検討								

※調査日程は、天候により再調整を行うことがある。